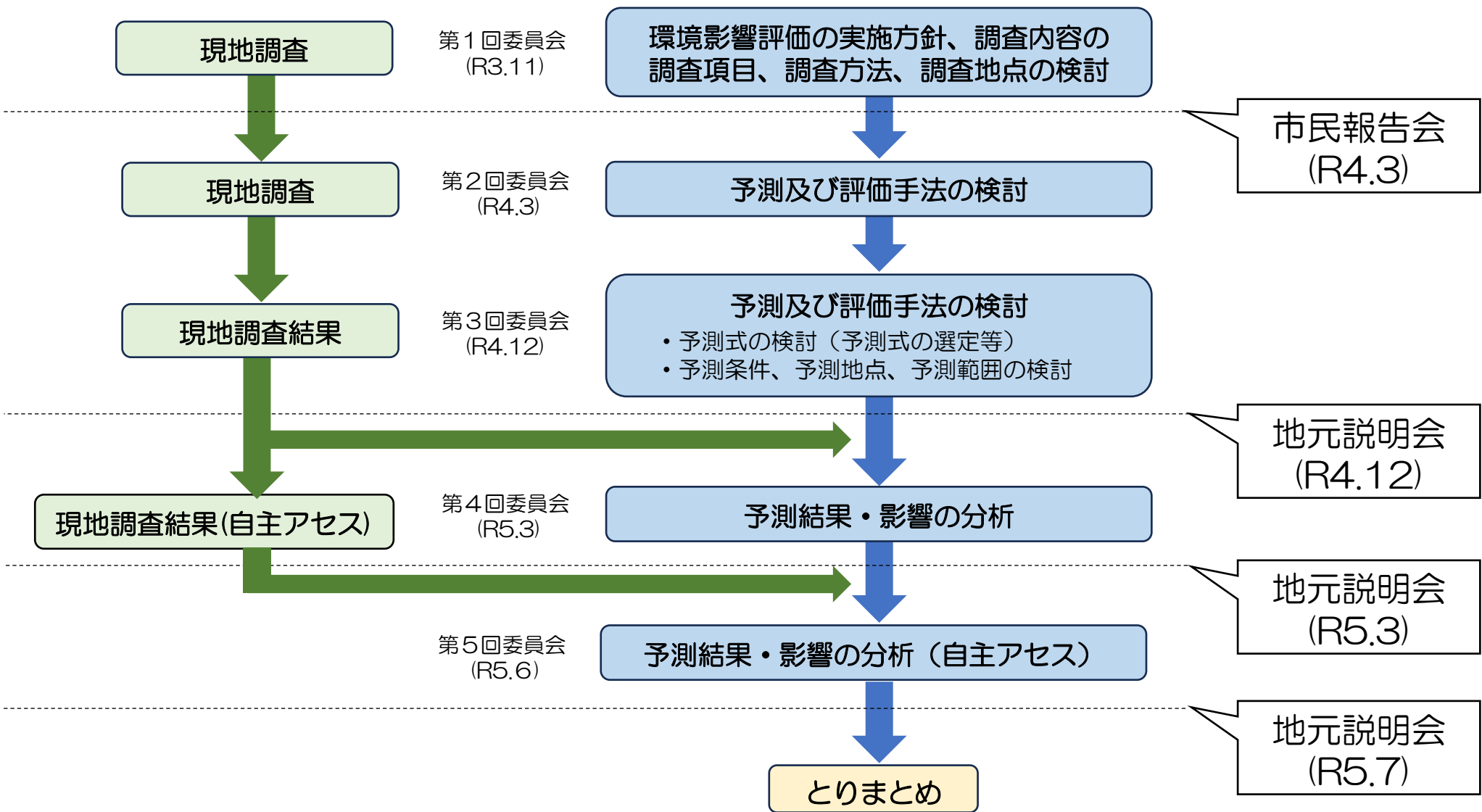


工事中の環境対策

令和 6 年 3 月 20 日
一般財団法人 茨城県環境保全事業団

生活環境影響調査の審議について

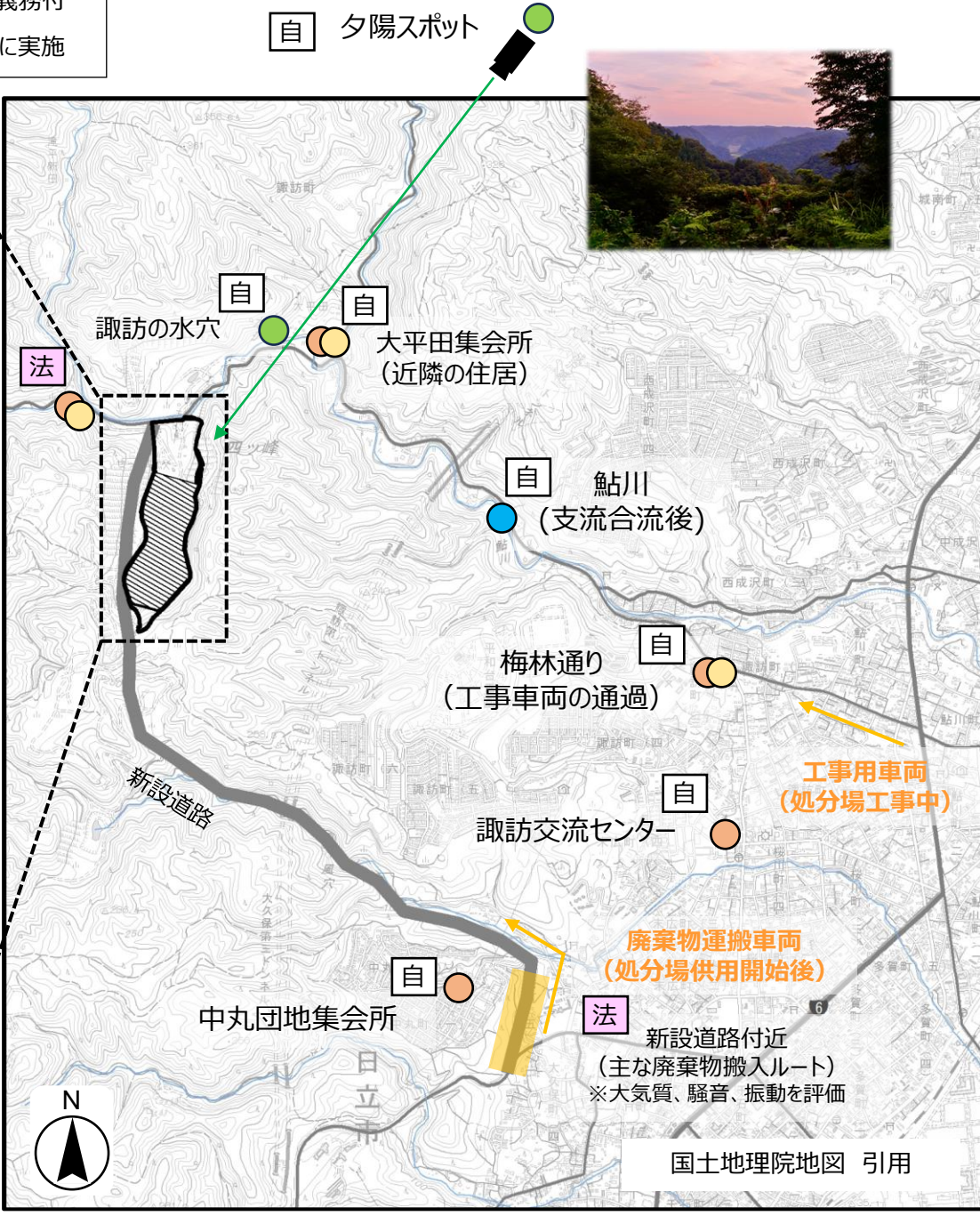
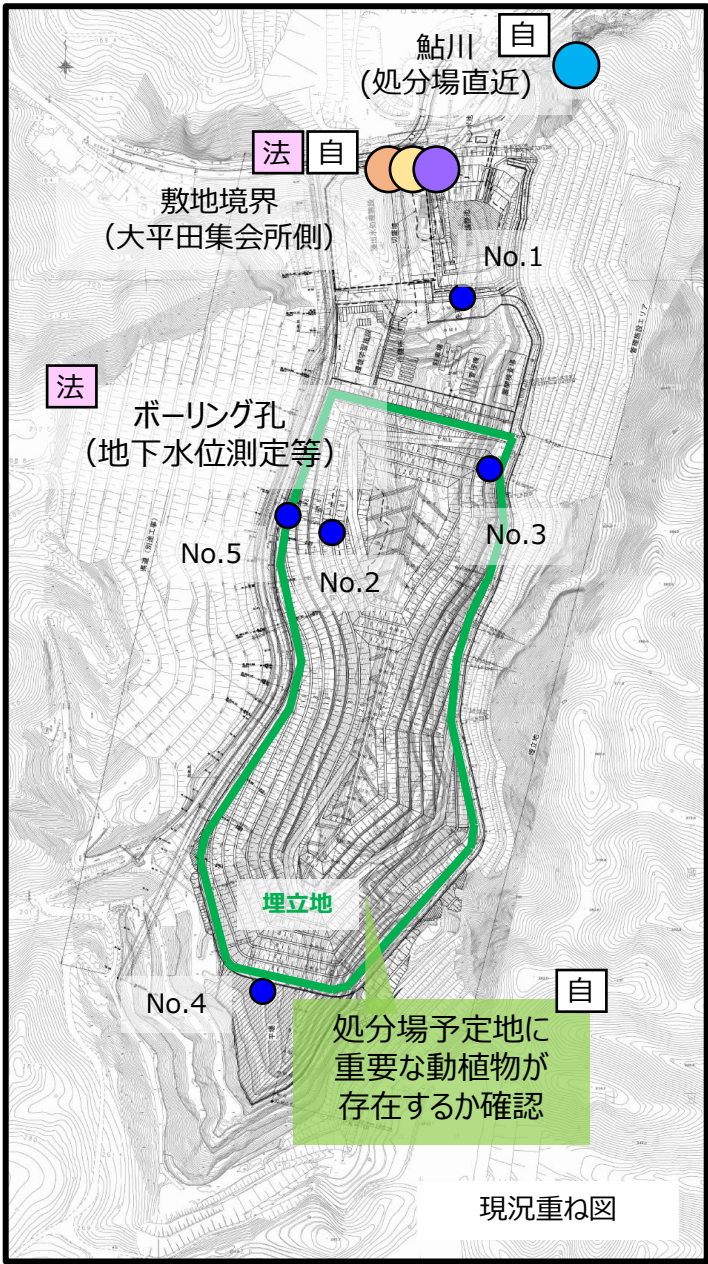
最終処分場の整備にあたり各分野の専門家で構成する「生活環境調査委員会」を全6回開催し、地元への説明をしながら、工事中的影響など自主的な内容まで拡大して調査をとりまとめた。



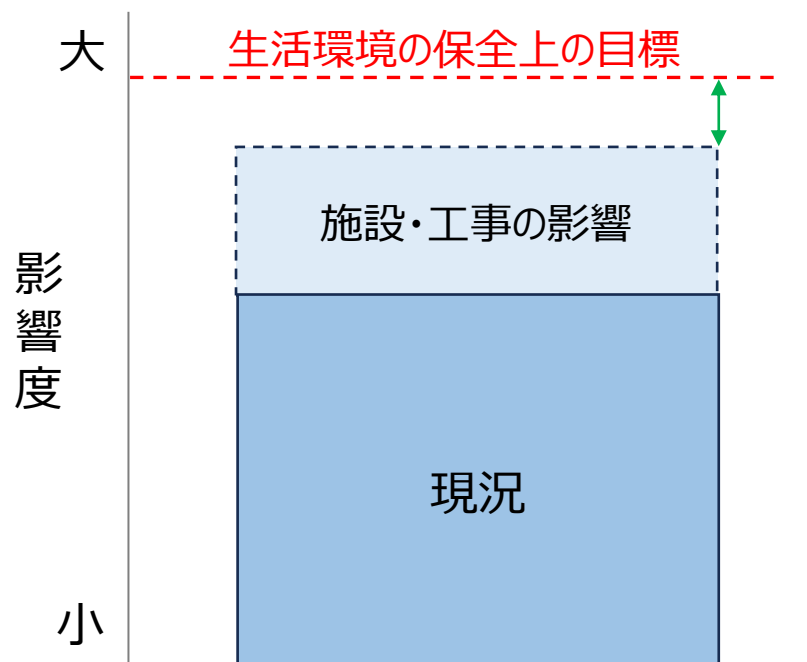
※第6回生活環境調査委員会は環境モニタリングの素案について審議

生活環境影響調査の予測評価項目

- 大気質
- 悪臭
- 地下水
- 法 法律で義務付
- 騒音・振動
- 水質
- その他環境
- 自 自主的に実施



予測評価の手法と生活環境保全上の目標



目標以下であればほとんど影響はないものと評価

最終処分場の供用や工事の影響を予測

実際に現地で測定



大気質調査



水質調査

予測評価項目	生活環境保全上の目標
● 大気質、● 騒音・振動、● 悪臭	法令で定められた基準を下回る（環境基準等）
● 水質	雨水のみ放流し、鮎川の水質を悪化させない
● 地下水	処分場の設置により、地下水位に変動がない
● 動植物	重要な動植物への影響を十分に低減
● 景観	「夕陽スポット」からの景観にほとんど変化がない
● ふれあいの活動の場	「諏訪の水穴」への影響を十分に低減
上記以外	工事中廃棄物の再利用、温室効果ガスの低減

予測評価の結果

影響を低減するための対策を実施する項目

環境影響要因		評価項目	予測評価
工事中	建設機械の稼働	窒素酸化物、浮遊粒子状物質等	環境基準値を下回った。
		粉じん	降下ばいじんの参考値とした10t/km ² /月を下回った。
		騒音、振動	建設作業騒音の規制基準・環境基準、建設作業振動の規制基準を下回った。
工事中	車両の運行	窒素酸化物、浮遊粒子状物質	環境基準値を下回った。
		粉じん	降下ばいじんの参考値とした10t/km ² /月を下回った。
		騒音	梅林通りの予測地点において、工事車両が通過しても現況(64dB)と変化はないとの予測結果であるが、可能な限り影響を低減できるよう配慮する。
		振動	道路交通振動の要請限度を下回った。
工事中	切土工等、処理施設の設置等	水の濁り	目標は現況の水質を悪化させないこととし、予測結果は現況と同程度となった。
工事中	最終処分場の存在	地下水	施工は大きな掘削を伴わず、地下水の水位及び流動状況に影響を及ぼさない。
供用後	施設(浸出水処理施設)の稼働	騒音、振動	特定工場等の規制基準・環境基準、感覚閾値を下回った。
供用後	埋立作業	窒素酸化物、浮遊粒子状物質等	環境基準値を下回った。
		粉じん	降下ばいじんの参考値とした10t/km ² /月を下回った。
		騒音、振動	特定工場等の規制基準・環境基準、感覚閾値を下回った。
供用後	施設(埋立地)からの悪臭の発生	悪臭	敷地境界における規制基準等を下回ると予測された。
供用後	廃棄物運搬車両の走行	窒素酸化物、浮遊粒子状物質	環境基準値を下回った。
		粉じん	降下ばいじんの参考値とした10t/km ² /月を下回った。
		騒音、振動	道路交通騒音の環境基準、道路交通振動の要請限度を下回った。
工事中	処分場の存在、埋立作業	動植物・生態系	動植物への影響を低減するための保全措置等を検討する。
供用後	処分場の存在	景観	主要な眺望点である「夕陽スポット」から望む景観は、ほぼ変化しない。
供用後	処分場の存在、埋立作業	人と自然との触れ合いの活動の場	「諏訪の水穴」への影響はほとんどない。
工事中	切土工等、処理施設の設置等	廃棄物等	発生コンクリート殻は建設リサイクル法等に基づく再生利用により、廃棄物の発生は抑制される。
工事中	建設機械	二酸化炭素	低燃費型・低炭素型の建設機械を可能な限り採用し、排出量は抑制される。
	車両運行	二酸化炭素	エコドライブの推進を行うよう指導を徹底し、排出量は抑制される。
供用後	最終処分場の存在	メタン	準好気性埋立によりメタン発酵の発生は抑制される。
供用後	埋立作業	二酸化炭素	低燃費型・低炭素型の建設機械を可能な限り採用し、排出量は抑制される。
	廃棄物運搬車両の走行	二酸化炭素	エコドライブの推進を行うよう指導を徹底し、排出量は抑制される。

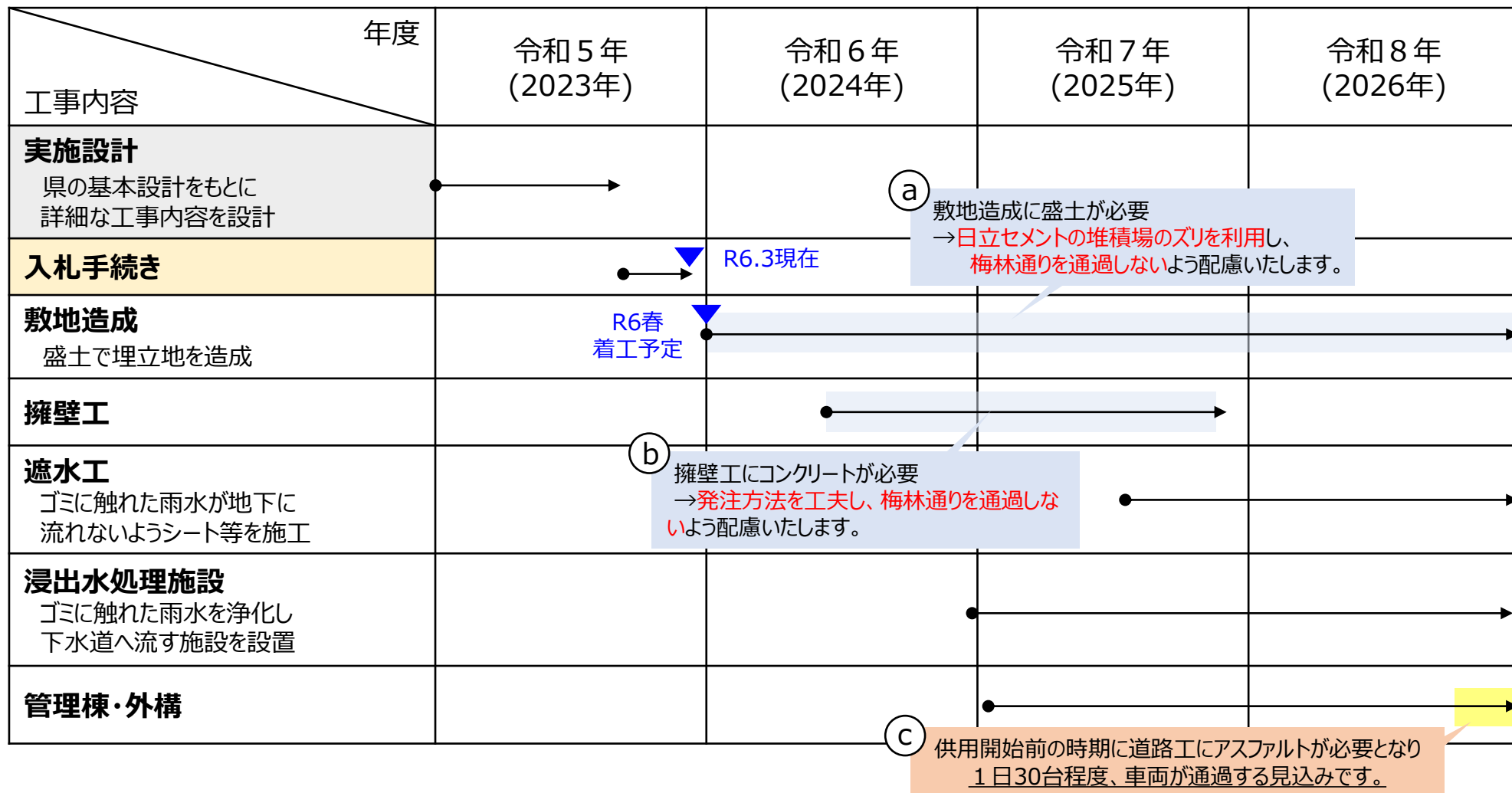
工事中の環境対策

環境影響要因		評価項目	環境保全対策
工事中	建設機械の稼働	窒素酸化物、浮遊粒子状物質、二酸化硫黄	<ul style="list-style-type: none"> 排出ガス対策型の建設機械を使用する。 建設機械は、不要なアイドリングを行わない。
		粉じん	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて散水を実施する。
		騒音、振動	<ul style="list-style-type: none"> 低騒音型の建設機械の使用に努める。 振動が発生しにくいように極力高負荷運転を避ける
工事中	車両の運行	窒素酸化物、浮遊粒子状物質	<ul style="list-style-type: none"> 資材及び機械の運搬に用いる車両は、排出ガス対策型の低公害車の導入を促進する。
		粉じん	<ul style="list-style-type: none"> 粉じんの巻きあがりが起こりにくいように走行速度を順守する
		騒音	<ul style="list-style-type: none"> 資材及び機械の運搬に用いる車両は、急発進、急ブレーキを行わず、車両は運行速度を厳守するよう請負業者に指導する。
		振動	<ul style="list-style-type: none"> 資材及び機械の運搬に用いる車両は、積載量等の交通規制を遵守し、アイドリング、急発進、急停車をしないなどの丁寧な運転を心がける。
工事中	切土工等、処理施設の設置等	水の濁り	<ul style="list-style-type: none"> 工事時は必要に応じて適切な規模の沈砂池を設置する。
工事中	最終処分場の存在	地下水	<ul style="list-style-type: none"> 施工中の地下水位をモニタリングし、必要に応じて対策を実施する。
工事中	処分場の存在、埋立作業	動植物・生態系	<ul style="list-style-type: none"> 代替池を設置し、改変前に確認地点からトンボ類の幼虫等の移設を行う。 カゴノキ、キジョランの個体移植を行う。
工事中	切土工等、処理施設の設置等	廃棄物等	<ul style="list-style-type: none"> 本事業で発生した建設廃棄物（コンクリート殻）については、建設リサイクル法等に基づき、再生利用を図る。
工事中	建設機械	二酸化炭素	<ul style="list-style-type: none"> 低燃費型あるいは低炭素型の建設機械を使用する。 建設機械は、不要なアイドリングを行わない。
	車両運行	二酸化炭素	<ul style="list-style-type: none"> 資材及び機械の運搬に用いる車両は、排出ガス対策型の低公害車の導入を促進する。

梅林通りを通過する工事用車両の対策

① 工事期間中の梅林通りを通過する工事用車両を減らします (a)+(b)

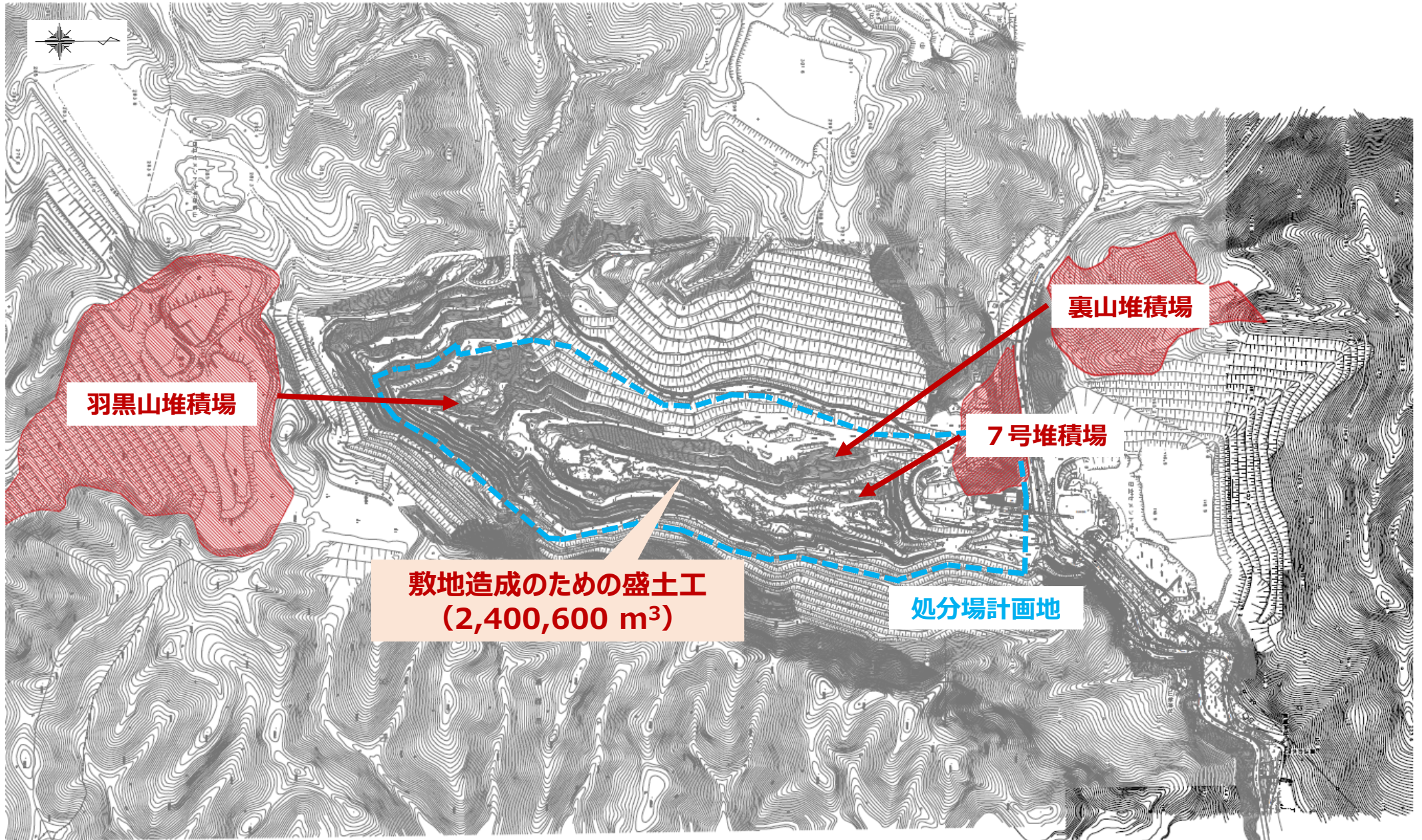
R8年度末
供用開始予定



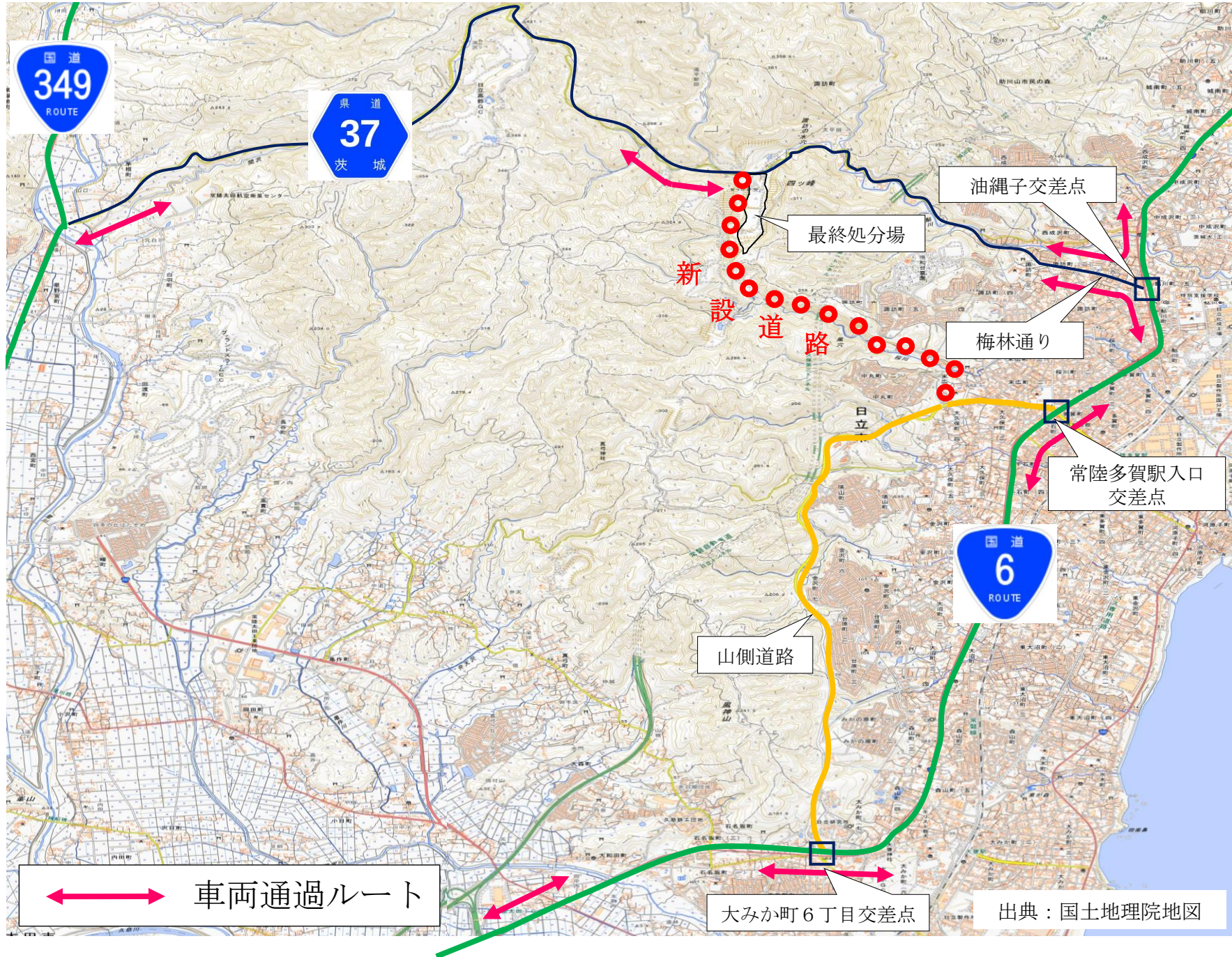
② 梅林通りを通過する車両が、騒音の原因となる急発進・急ブレーキ等ないように事業者に対して教育を徹底してまいります

(c)

処分場周辺の堆積場からのズリの搬入



工事用車両の運行ルート



重要な動植物の保全措置

動物



キイトンボ

県レッドデータブック 準絶滅危惧種



ネキトンボ

県レッドデータブック 準絶滅危惧種

植物



カゴノキ

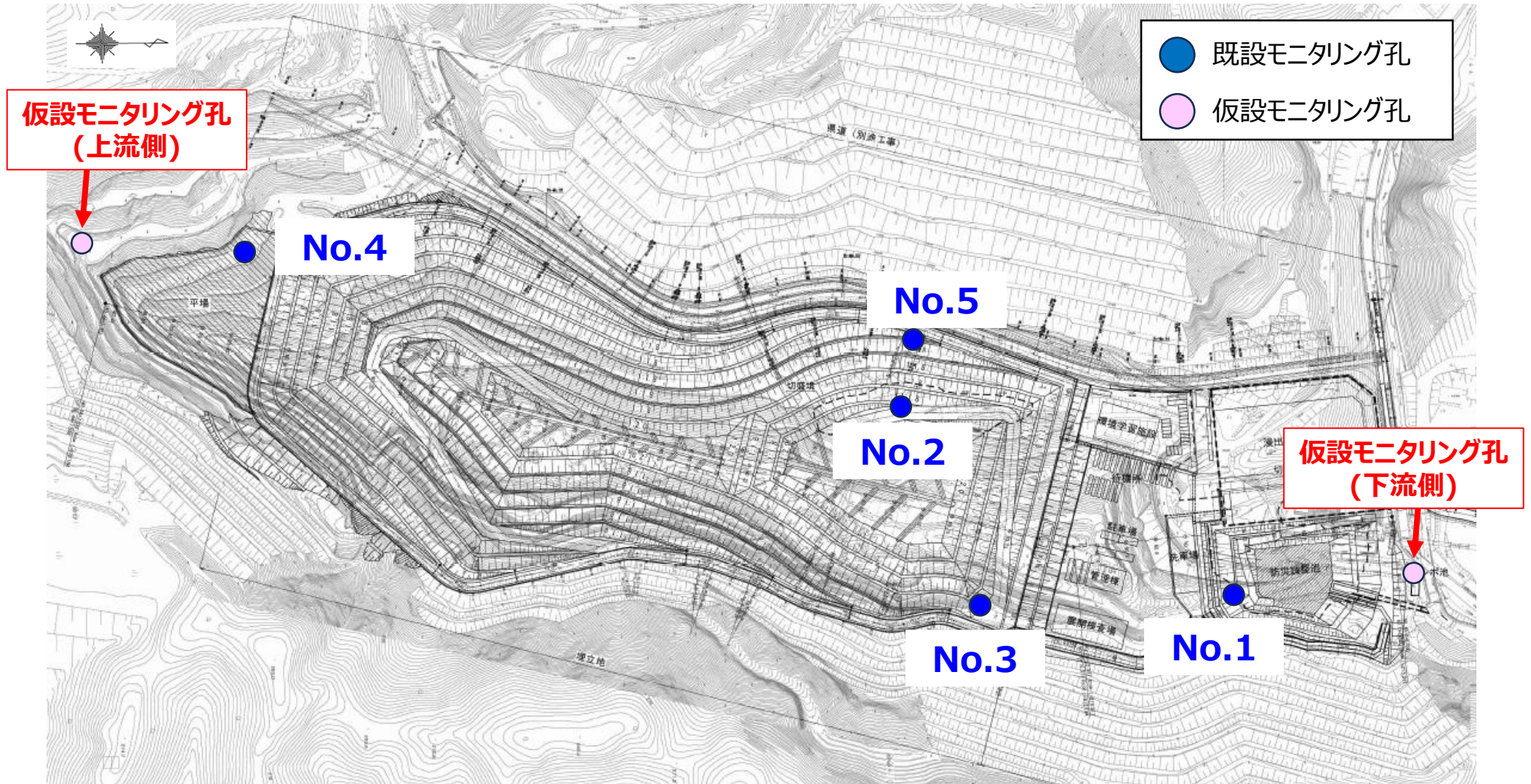
県レッドデータブック 準絶滅危惧種



キジョラン

県レッドデータブック 準絶滅危惧種

工事中の地下水モニタリング



まとめ

- 事業団では、生活環境影響調査書に基づき、工事に際しても適切な環境保全対策を実施してまいります。
- 梅林通りの騒音対策として、処分場周辺のズリを活用する等により、梅林通りを通行する車両台数を減らす方策、騒音の原因となる急発進・急ブレーキ等しないよう事業者に対する指導の徹底等を図ってまいります。
- 処分場計画地で確認された重要な動植物については、工事着工前に移植措置を行い、その後の生育、生息状況についてモニタリングを実施してまいります。